

音楽科学習指導案

題材名「いろいろな音色を感じ取ろう」

学 年：第4学年 13名（男子8名・女子5名）

日 時：平成26年10月15日（水）第5校時

指導者：安芸高田市立根野小学校 大野 裕子

1 題材について

【題材の目標】

- いろいろな音の特徴や音色の違いを感じ取りながら、想像豊かに聴いたり思いや意図をもって表現したりすることができるようにする。
- 音の特徴や音色の違いを生かして、音色や音量のバランスに気をつけながら、音の組み合わせを工夫して演奏することができるようにする。

【学習指導要領】 「A表現」(1)ア(2)ア(3)ア
「B鑑賞」イ

〔共通事項〕

- (1) ア
 (ア) 音色 リズム
 強弱
- (イ) 反復
 問いと答え

【教材】 ・「バディネリ」バッハ作曲 「クラリネット ポルカ」 ポーランド民謡
 ・「音のカーニバル」 芙蓉明子作詞 橋本祥路作曲

【題材観】

本題材は、木管楽器の中からフルートとクラリネットの曲を鑑賞したり、材質の違いによる音の特徴や音色の違いを感じ取ったりする活動を通して、音色の違いを生かした表現活動へつなげていくことをねらいとしている。

「バディネリ」の主旋律は、細やかな動きを軽やかに表現しており、すんだ音色のフルートの演奏のよさを味わえる教材である。「クラリネットポルカ」は、広い音域を表現することができるクラリネットの特徴や、その多彩な音色を感じ取って聴くのに適した教材である。

「音のカーニバル」は、歌とリズムが一体化している教材である。材質の違いによる打楽器の音色や響きを感じ取る「音づくり」では、それぞれの楽器本来の音色のよさを感じ取らせるとともに、持ち方や打つ物、打つ場所によっても音色が変わることに気づかせることができる。つくった音や見つけた音を使って「音のカーニバル」で歌と合わせ音楽の中で音の変化を楽しむことができる教材である。

「リズムアンサンブル」は、グループごとにおもしろい音の組み合わせになるように皮・金属・木でできている楽器から選んで、リズムや強弱を工夫しながらアンサンブルを楽しむことができる。

【児童観】

本学級の児童は、これまでもリズムリレーなど聴いて活動することや、7月教材「拍の流れにのろう」の旋律づくりに意欲的に取り組むことができている。歌を歌うことも大好きである。

1学期には、グループで学習する形態をとることが少なく、お互いの思いや意図をくみ取って演奏する経験ができにくかった。

【指導観】

〔言語活動の充実〕

木管楽器の音色の聴き比べや、材質の違いによる音の特徴や音色の違いを感じ取る学習では、聴いた音色を言葉を使って表現させる。「音づくり」や「リズムアンサンブル」では、どうしてこの楽器を選んだのか、どうしてこのようなリズムや強弱にしたのかを自分の言葉で発表させる。

〔教材教具の工夫〕

拡大したリズム譜やアンサンブル表、グループでアンサンブルをするためのワークシートを用意する。

〔学習形態〕

グループで、互いのパートを聴き合ったり、強さや7回目のリズムを相談したりしながら、拍を合わせたアンサンブルに仕上げる。

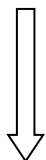
2 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
① 楽器の音の特徴や音色の違いに関心を持ち、進んで聴こうとしている。 【鑑賞】 ② いろいろな音を聴き比べ、音色や響きの違いを感じ取ろうとしている。 【音楽づくり】	① 音の特徴や音色の違いを生かして、音色や音量のバランスに気をつけながら音の組み合わせを工夫し、どのように演奏するかについての思いや意図をもっている。 【音楽づくり・器楽】 ② 音色の違いを生かして、イメージに合う音の組み合わせの工夫をしている。 【音楽づくり】	① 拍の流れに合わせて、歌ったりリズム打ちをしたりしている。 【歌唱・器楽】 ② 楽器の音色を生かして、イメージに合った音の組み合わせを工夫して演奏している。 【器楽】	① フルートとクラリネットの音色の美しさや音の特徴を感じ取り、それを言葉や体の動きなどで表して、楽曲の特徴や演奏のよさに気づいて聴いている。 【鑑賞】

3 題材構成の工夫

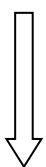
「表現領域と鑑賞領域を関連付けて構成」（鑑賞→歌唱→音楽づくり→器楽・歌唱）

【鑑賞】



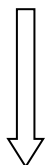
・「バディネリ」と「クラリネットポルカ」を鑑賞し、旋律の反復や音の動き、全体の流れに気を付けて聴かせ、フルートとクラリネットの音色の違いや美しさを感じ取らせる。

【歌唱】



・手拍子や打楽器を打ちたくなるように、拍の流れに合わせて歌わせる。

【音楽づくり】



・材質の違いによる音の特徴やそれぞれの音色の違いを感じ取りながら、音づくりやリズムアンサンブルをさせる。

【器楽・歌唱】

・音色の違いを生かして音の組み合わせを工夫させ、「音のカーニバル」を演奏させる。

4 評価と指導の計画

次	領域・分野	教材	時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	ア	イ	ウ	エ	具体の評価規準 (評価方法)
					関・意・態	創意工夫	表現の技能	鑑賞の能力	
第一次	鑑賞	バディネリ クラリネットポルカ	第1時	◎フルートとクラリネットの響きに親しむ。 ○「バディネリ」と「クラリネットポルカ」を聴き、曲の感じをつかむ。また、フルートとクラリネットについて知り、音色の美しさを味わう。 ・「主な旋律」をロズさんだり、絵譜を指でなぞったりしながら聴く。 ・曲に合わせて指揮のまねをしたり、手拍子でリズムを打ったりしながら聴き、感じたことや気づいたことをワークシートに書き込み、交流する。 ・フルートとクラリネットの楽器の形や材質、演奏のしかたについて知る。 ・フルートとクラリネットの音色や音の特徴について、感じたことや気づいたことをワークシートに書き込み、交流する。	○			◎	ア①(行動観察, 発言内容) エ①(表情観察, 発言内容ワークシート)
				第二次	歌唱	音のカーニバル 第2時	◎拍の流れに合わせて歌ったりリズム打ちをしたりする。 ○曲全体の感じをつかみ、主旋律を歌い、リズムパートを合わせる。 ・CDを聴いて、曲の特徴を感じ取る。 ・拍の流れにのって歌う。 ・前半と後半の違いを感じて、歌い方を工夫する。 ・拍の流れに合わせて、手拍子でリズムを打つ。 ・歌と手拍子を合わせて演奏する。		
第三次	音楽づくり	音づくり 第3時	◎材質の違いや奏法の違いによる音の特徴を感じ取り演奏する。 ○いろいろな音を聴き比べ、材質による打楽器の音色や響きの違いを感じ取る。 ・いろいろな音を聴き比べ、皮、金属、木などに分類する。 ・打楽器の鳴らし方や鳴らす順番や音の強さを工夫して見つけた音を発表する。				◎		
			第4時	○おもしろい音の組み合わせを工夫して、リズムアンサンブルをする。 ・4人のグループに分かれ、①～③の楽器を選んでリズム練習をする。			◎		ウ①(演奏観察, 演奏聴取)
			第5時(本時)	○強弱や鳴らす人数を工夫して演奏し、聴き合う。 ・7回目の部分のリズムを自由につくり、リズムアンサンブルをする。 ・思いや意図をもち、音の強弱、鳴らす人数の工夫をする。 ・グループごとに発表し合い、お互いの工夫のよいところを見つけ発表する。		◎			イ①(演奏観察, 演奏聴取, 発言内容)
◎音色の違いを生かして、組み合わせた音を入れて演奏する。									

器楽・歌唱	音のカーニバル	第6時	○音色の違いを生かして、音の組み合わせを工夫する。 ・グループでどんな「音のカーニバル」にしたいかを話し合う。 ・イメージに合う組み合わせを考えて、○△◇□の音を選ぶ。 ・グループで聴き合いながら、よりよい組み合わせになるように工夫する。	◎	イ②(演奏観察, 行動観察, ワークシート)
		第7時	○歌と打楽器を合わせ、イメージに合った「音のカーニバル」を演奏する。 ・グループの発表淳を工夫し、続けて演奏したり繰り返し演奏したりして楽しむ。 ・演奏を聴いて感想を発表し合う。	◎	ウ②(演奏聴取)

5 本時の学習 (第三次 第5時)

(1) 本時の目標

打楽器の音の特徴や音色の違いを生かして、音色や音量のバランスに気をつけながら音の組み合わせを工夫し、どのように演奏するかについての思いや意図をもつ。

(2) 観点別評価規準

音の特徴や音色の違いを生かして、音色や音量のバランスに気をつけながら音の組み合わせを工夫し、どのように演奏するかについての思いや意図をもっている。[イ①]

(3) 準備物

ワークシート、アンサンブル表拡大シート、リズム譜拡大シート

(4) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価基準〔観点〕(評価方法)
1 既習曲を歌う。 ・「音のカーニバル」	○第二次で学習したことを生かして歌わせる。	
2 本時のめあてと、本時の学習内容のポイントを確認する。		
リズムや音の強弱、鳴らす人数をくふうして演奏しよう。		
	○リズムアンサンブルを工夫するポイントを示す。 ・お互いの楽器の音色を聴きながら7回目のリズムを工夫させる。 ・自分達のグループで、音の強弱や鳴らす人数の工夫を考える。	
3 グループで音を出しながら強弱の工夫をする。	○グループ内で思いを出し合いながら、強弱や鳴らす人数、7回目のリズム(2小節)を考えさせる。	○音の特徴や音色の違いを生かして、音色や音量のバランスに気をつけながら音の組み合わせを工夫し、どのように演奏す

<p style="text-align: center;">↑</p> <p>(指導のポイント) 作ったリズムや、音の強弱や鳴らす人数の工夫について、思いや考えをしっかりと話し合わせる。</p>	<p>(予想される児童の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器が増えてくるところはだんだん強くしよう。鳴らす人数を増やそう。 ・2小節ずつ強弱をつけよう。 ・最後はみんながそろって終わるので、音を強くしよう。 ・音が長く響くように、細かいリズムではなく、二部音符や付点二部音符にしよう。 ・細かく切れる音を出したいので、八分音符を使ったリズムにしよう。 <p>○考えたリズムをワークシートに書き込ませる。</p>	<p>るかについての思いや意図をもっている。[イ①] (発言内容, 行動観察, 演奏聴取, ワークシート)</p>
<p>4 お互いのグループの演奏を聴き合い感想を交流する。</p> <p>5 本時の学習をふり返る</p>	<p>○グループで工夫したことがわかるように説明させてから発表する。</p> <p>○強弱のつけ方やリズムを考えてリズムアンサンブルを行ったことについて、ふり返らせる。</p>	

(5) 板書計画

めあて リズムや音の強弱, 鳴らす人数をくふうして演奏しよう。			
学習の流れ ① ふくしゅう ② めあて ③ グループ ④ 発表 ⑤ 振り返り	① ~ ③の リズム譜	「アンサンブル表」	強弱記号
	1 グループ	2 グループ	3 グループ